

HACが今秋増機した、地球にやさしいATR42-600型機。

開陽台から見渡す地平線。



JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします



安全なデータマーケティングで道東の活性化を目指す 移動ニーズ把握の実証実験開始!

12年ぶり新規就航! 根室中標津空港

先月、北海道エアシステム（HAC）は札幌（丘珠）―根室中標津線を新規開設しました。JALグループ国内線として12年ぶりの新規就航空港となります。根室中標津空港周辺は酪農が盛んなエリア。のどかな牧場風景が広がり、開陽台などの景勝地にも近く、温泉やグルメも楽しめます。JALグループはそんな根室中標津空港周辺と、近隣の女満別空港、釧路空港周辺を含めた道東エリア全体の広域観光を充実させ、活性化を促すべく、さまざまな取り組みを行っています。

その一つが今年8月から始めた実証実験です。NTTドコモが日本電信電話株式会社との協力を得て開発した「秘匿クロス統計技術[®]」を用いて、JALとドコモが保有するデータから道内の移動ニーズを把握し、HACやJALカードの力もあわせて、地域の活性化と課題解決を目指しています。

異業種間の安全なデータ連携 何がわかる? 何ができる?

実はJALグループとドコモが組んで、秘匿クロス統計技術を活用した実証実験を行うのは、今回が初めてではありません。2022年にはJAL便の定時出発率向上を目指し、JAL、J

ALカード、ドコモが実証実験を行いました。ご搭乗前の4つのタスキングの移動状況に関する統計情報を把握し、それを基に空港到着目安時間などのご案内をお客さまにお送りしたところ、皆さまのスムーズなご搭乗につながったのです。各社が保有するデータを相互に開示せず作成した統計情報を活用する国内初の試みでした。「昨年の成果が、今回の新たな取り組みにつながりました。根室中標津路線開設をきっかけに道東の活性化に取り組みたい」というHACの強い思いと、前回の実証実験に関わった3社の知見の相乗効果で、お客さまに新たなサービスや施策を提案できたらと考えています」と語るのは、JALのデータマーケティング部で顧客データ戦略を担う田淵美帆です。

道東の人流創出と 新たな価値創造を目指す

「今回はまず道東行きのJAL便をご利用のお客さまについて、搭乗前後の移動状況に関する人口統計情報を、秘匿クロス統計技術を用いて作成します。さらにドコモの携帯電話ネットワークの仕組みを使用した『モバイル空間統計[®]』

個人を識別できない状態に加工した上で、各社が保有するデータを明かさずに安全な統計情報を作成

秘匿クロス統計技術

JAL
搭乗に関する情報
および会員データ

NTTドコモ
携帯電話ネットワークの
運用データ

道東エリアの 地域活性化を 目指す



航空便利用前後のお客さまの移動状況に関する統計情報

という人口統計を活用し、JAL利用者以外も含めた道東エリア全体の移動ニーズを把握します。その結果を踏まえ、どのようなお客さまに、どこに向けた交通の充実を図るべきかなどを検討します。他社交通手段とも連携しながら、例えば空港から観光地への移動手段を充実させたり、根室中標津から道東観光をお楽しみいただいた後、シームレスな移動で釧路から羽田に飛べたりするよう、お客さまに寄り添ったサービスで、人流創出を目指しています」この実験でHACとJAL北海道支社は、道東エリアの地域ごとの需要特性を把握し、道内航空ネットワークの利便性向上に向け、航空領域での施策を検討します。JALカードは、スマートで快適な旅の時間をお過ごしいただくため、お客さまとのタッチポイントを探り、新たなサービスや商品開発にチャレンジします。「来年3月までの実証実験で一定の成果が得られれば、他のエリアへの展開も考えています」と期待をかける田淵。JALグループはこれからも、安全安心な旅を通じた豊かな社会の実現に挑戦してまいります。

※「秘匿クロス統計技術」および「モバイル空間統計」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。

「Challenge JAL」などJALグループのさまざまな取り組みは、右記JAL Webサイトをご覧ください。

→ www.jal.com/ja/